



報道発表

平成30年2月23日
東京税関

不正薬物の摘発件数236件、押収量約417kg

✓覚醒剤・大麻の押収量が、不正薬物全体の約98%を占めた

✓大麻の押収量が大幅に増加し、過去10年間で最大！

～平成29年の東京税関における不正薬物密輸入事犯の取締り状況～

東京税関において平成29年中に摘発した不正薬物(※1)は、合計で236件/約417kg(※2)となった。内訳は、覚醒剤100件/約283kg、大麻42件/約126kg、麻薬26件/約6kg、向精神薬6件/約2千錠、指定薬物62件/約2kgであった。

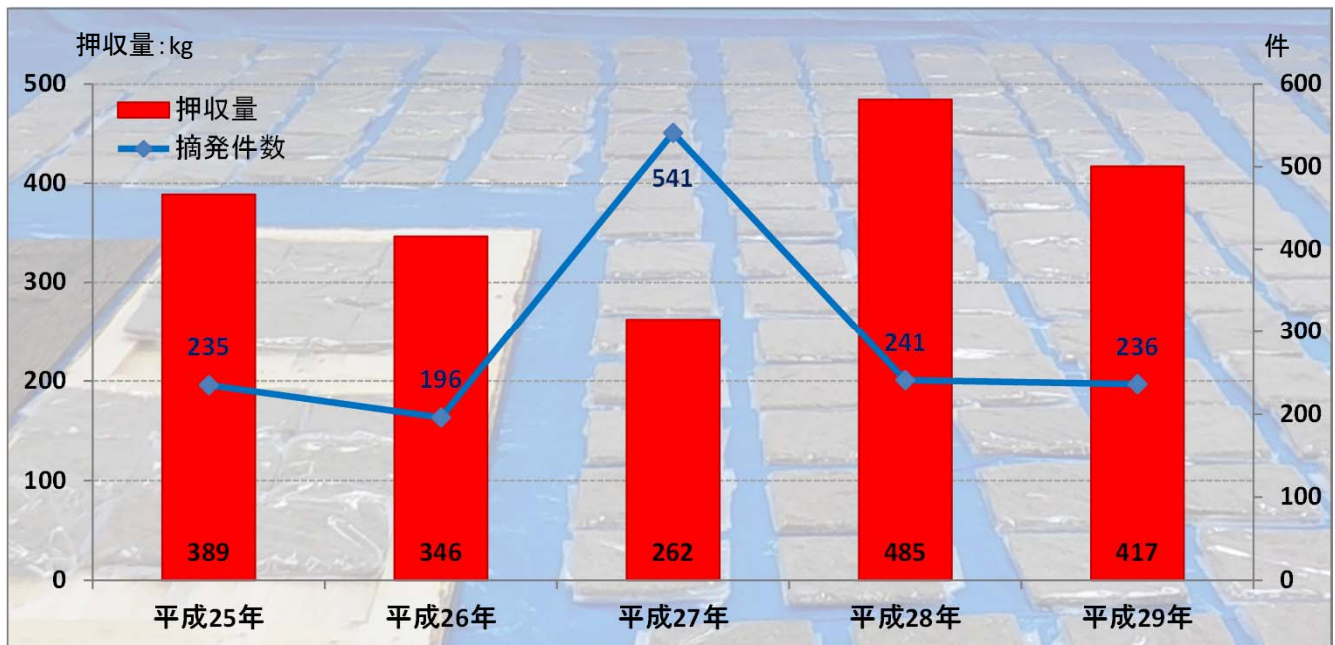
[主な特徴]

- ◆ 覚醒剤の航空機旅客からの摘発件数は大幅に増加（前年の31件から81件に増加）
- ◆ 国際郵便から覚醒剤の大口密輸入事犯（約64kg）を摘発
- ◆ 覚醒剤の仕出地として、タイ、マレーシアの急増によりアジアが増加（前年の31件から54件）、また、中東地域から2年ぶりの摘発（7件）
- ◆ 海上貨物から大麻の大量密輸入事犯（約100kg）を摘発

※1 覚醒剤、大麻、あへん、麻薬（ヘロイン、コカイン、MDMA等）、向精神薬及び指定薬物をいう
資料1：「東京税関における社会悪物品の摘発実績」参照

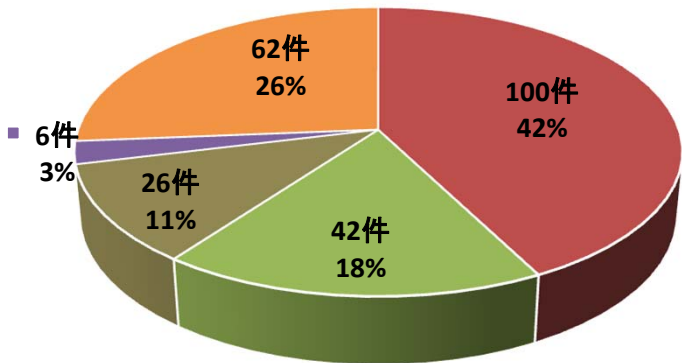
※2 錠剤型薬物を除いたもの
平成29年実績（速報値）

東京税関における不正薬物摘発実績

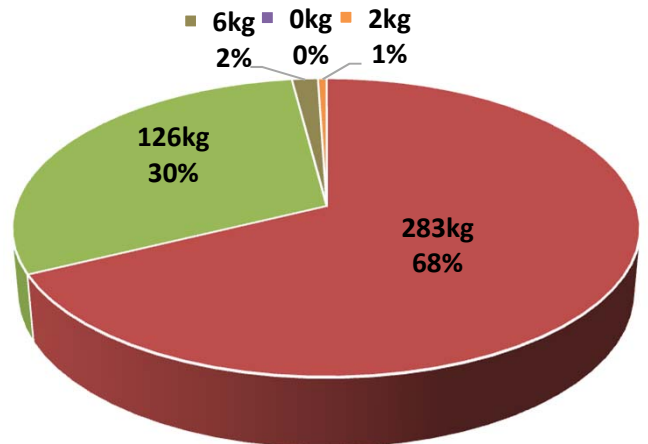


平成29年不正薬物の種類別摘発実績

不正薬物摘発件数



不正薬物摘発押収量



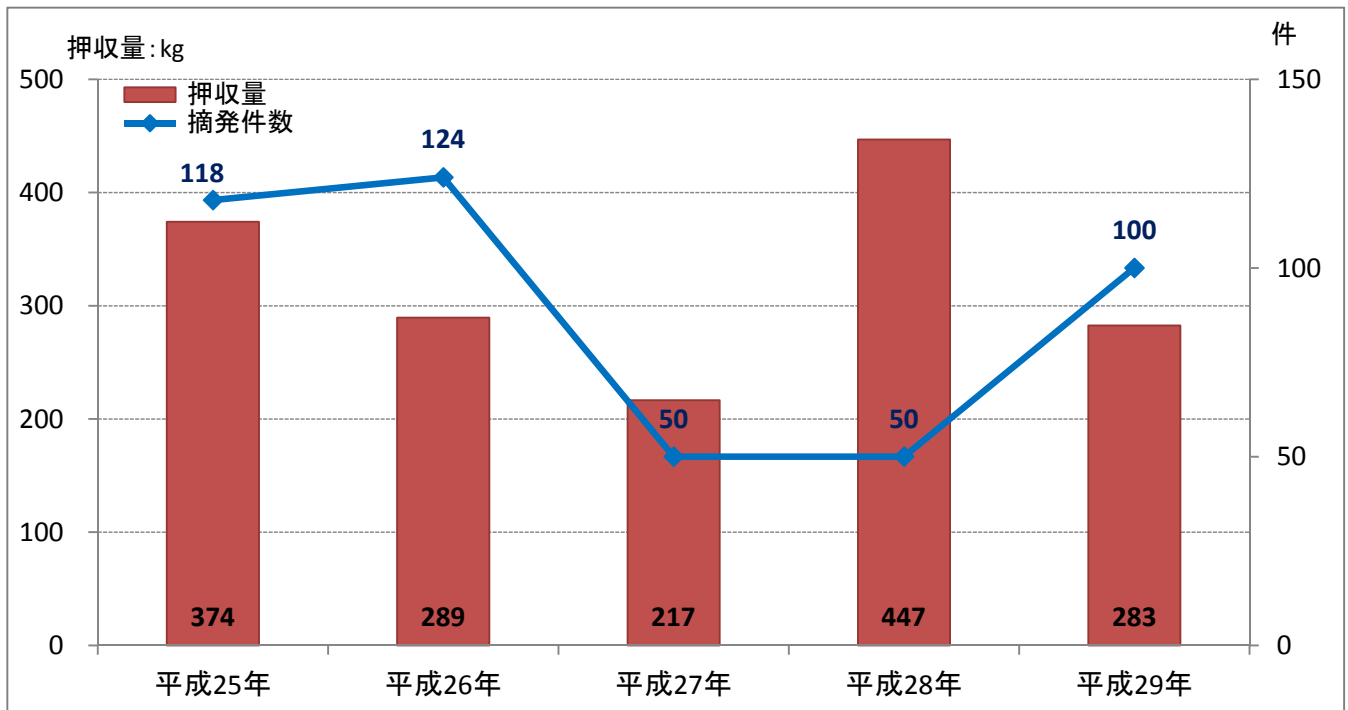
■ 覚醒剤 ■ 大麻 ■ 麻薬 ■ 向精神薬 ■ 指定薬物

この資料における表記について、押収量の「0」とは500g未満を示す。
端数処理の関係上、合計値は合わない場合がある（以下同じ）

1 覚醒剤密輸入事犯の概況

- 摘発件数は、前年の2倍と大幅に増加した。
- 押収量は減少したものの、依然として不正薬物全体の約7割を占め、不正薬物密輸入事犯の中心となっている。

覚醒剤摘発実績



(1) 密輸入形態

- 航空機旅客からの摘発は大幅に増加し、件数は前年の約2.6倍、押収量は前年の約2.7倍となった。
- 国際郵便からの摘発は大幅に増加し、件数は前年の約3.3倍、押収量は約4.5倍となった。また、1件の押収量が約64kgの摘発があり、国際郵便における押収量としては、過去最大を記録した。

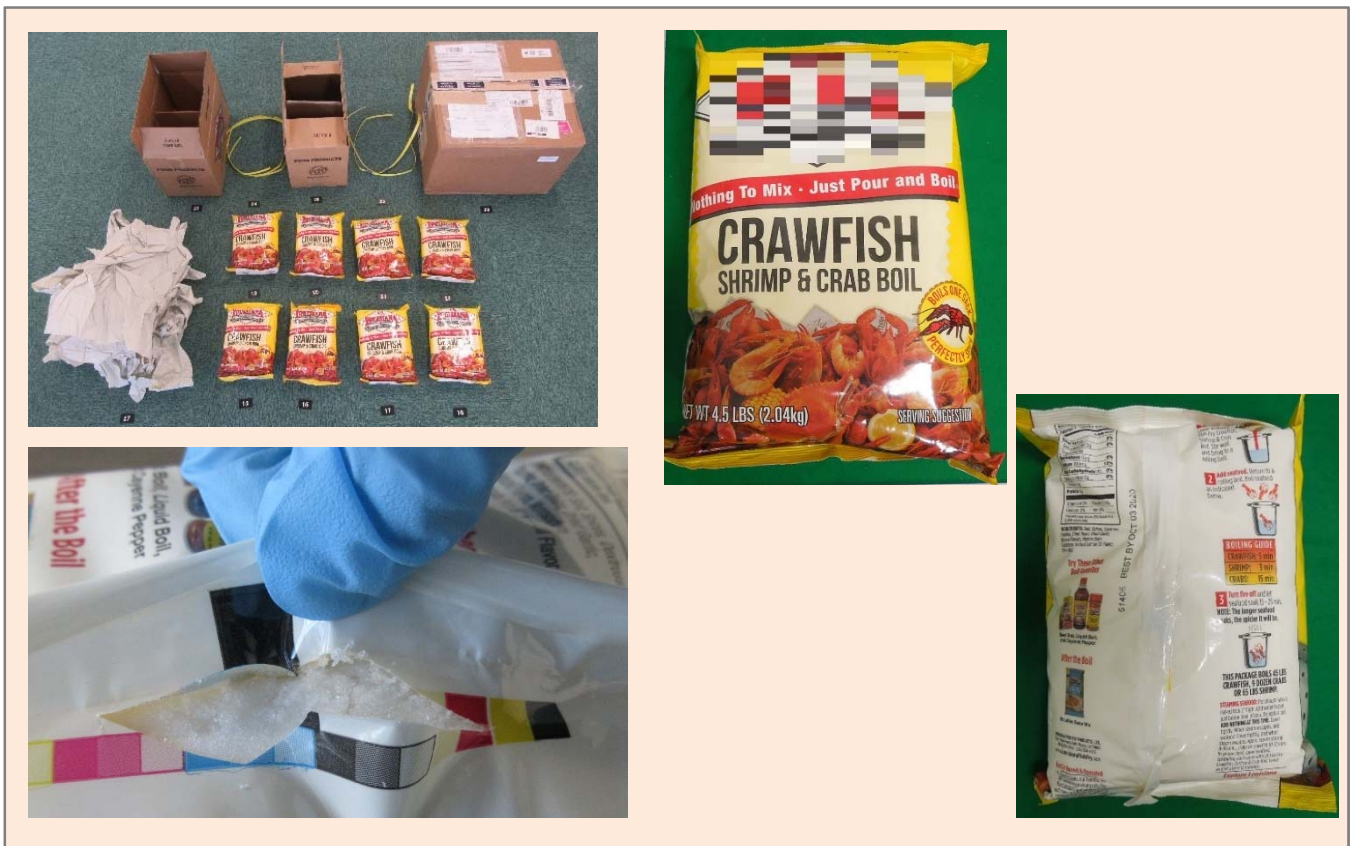
形態別覚醒剤摘発実績

(摘発件数/押収量)

	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
航空機旅客	92件	273kg	99件	208kg	24件	65kg	31件	63kg	81件	169kg
商業貨物	14件	95kg	10件	67kg	15件	149kg	15件	367kg	6件	35kg
海上貨物	-	-	-	-	4件	77kg	2件	300kg	-	-
航空貨物	14件	95kg	10件	67kg	11件	72kg	13件	66kg	6件	35kg
国際郵便	12件	6kg	14件	14kg	11件	2kg	4件	17kg	13件	78kg
船舶乗組員	-	-	1件	0kg	-	-	-	-	-	-
合計	118件	374kg	124件	289kg	50件	217kg	50件	447kg	100件	283kg

国際郵便から約64kgの押収、過去最大！

平成29年12月、米国来の国際郵便から、シーズニング（調味料）の袋に隠匿された覚醒剤約64kgを摘発した。国際郵便における1件あたりの押収量としては、過去最大を記録した。



(2) 仕出地

- 仕出地(※)は、前年の13から25に増加し、特にアフリカ・欧州・中東地域から増加した。
- 仕出地別の摘発件数では、アジアが依然として最多となっている。
- 押収量では、前年はアジアが最大であったが、平成29年は大口摘発があったことから、北米が最大となった。
- 中東仕出は、2年ぶりに摘発があり、7件約12kgとなった。

※ 中国には、香港を含む

仕出地別覚醒剤摘発実績

(摘発件数・押収量／構成比)

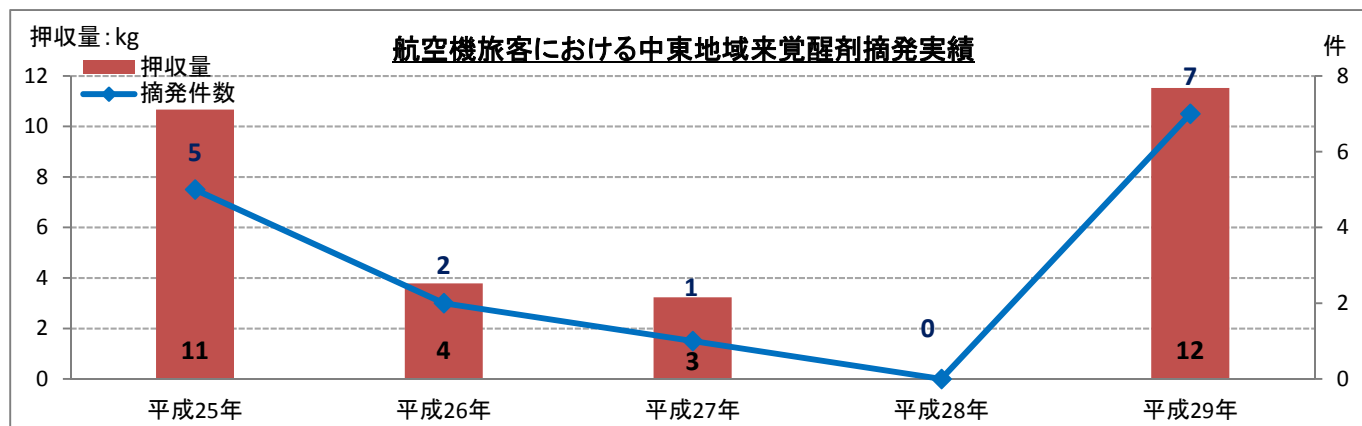
	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
アジア	54件	46%	90件	73%	33件	66%	31件	62%	54件	54%
	164kg	44%	201kg	70%	132kg	61%	361kg	81%	83kg	29%
北米	9件	8%	3件	2%	6件	12%	8件	16%	6件	6%
	31kg	8%	0kg	0%	3kg	1%	16kg	4%	93kg	33%
中南米	21件	18%	7件	6%	5件	10%	2件	4%	5件	5%
	72kg	19%	39kg	13%	54kg	25%	27kg	6%	10kg	3%
アフリカ	18件	15%	7件	6%	2件	4%	5件	10%	15件	15%
	81kg	22%	9kg	3%	20kg	9%	38kg	8%	70kg	25%
欧州	9件	8%	15件	12%	2件	4%	3件	6%	10件	10%
	13kg	4%	37kg	13%	4kg	2%	6kg	1%	16kg	6%
中東	6件	5%	2件	2%	2件	4%	-	-	7件	7%
	12kg	3%	4kg	1%	3kg	2%	-	-	12kg	4%
不明	1件	1%	-	-	-	-	1件	2%	3件	3%
	1kg	0%	-	-	-	-	0kg	0%	0kg	0%
合計	118件	100%	124件	100%	50件	100%	50件	100%	100件	100%
	374kg	100%	289kg	100%	217kg	100%	447kg	100%	283kg	100%

航空機旅客による密輸の増加！①

～中東地域来の急増～

東京税関において平成26年以降減少傾向にあった航空機旅客による覚醒剤の摘発が大幅に増加し、覚醒剤摘発件数の約8割が航空機旅客によるものであった。

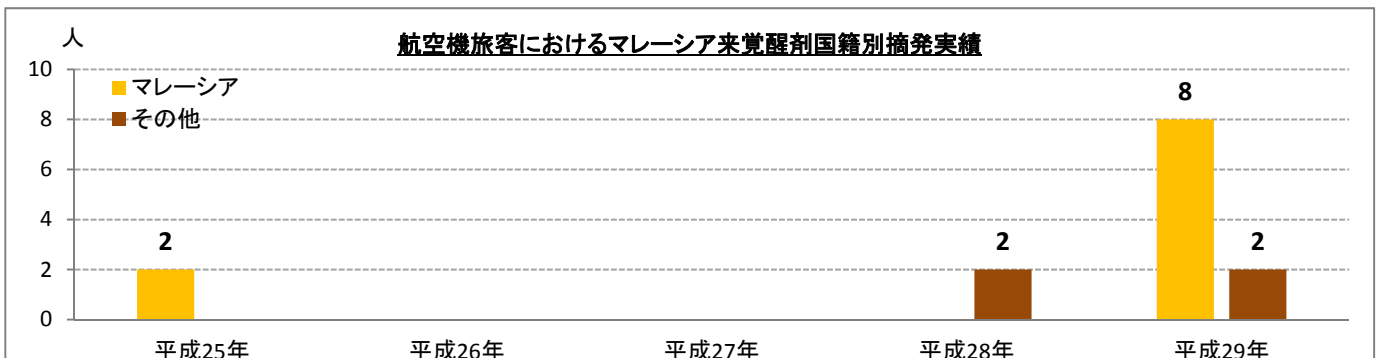
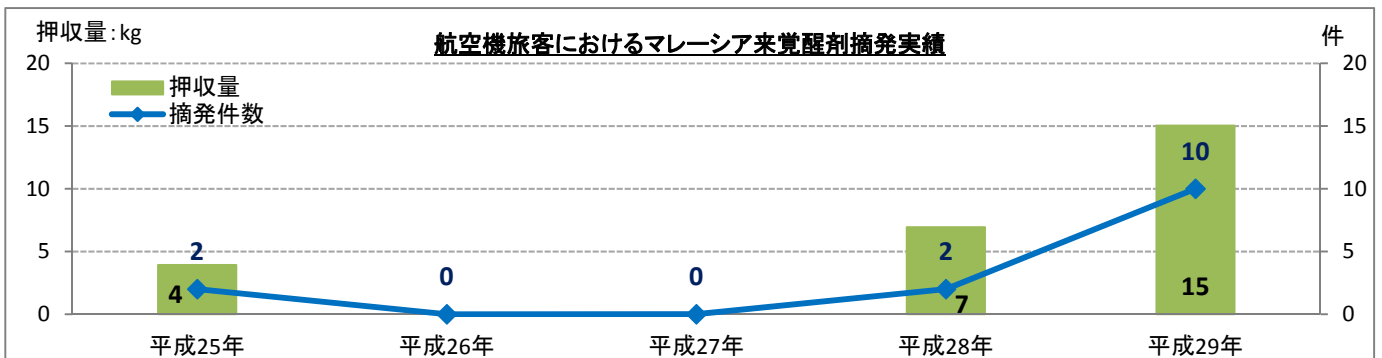
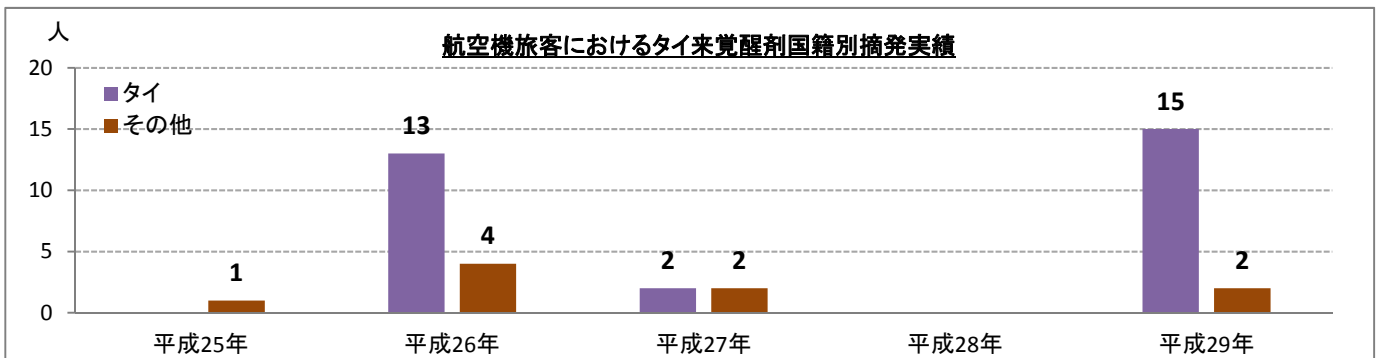
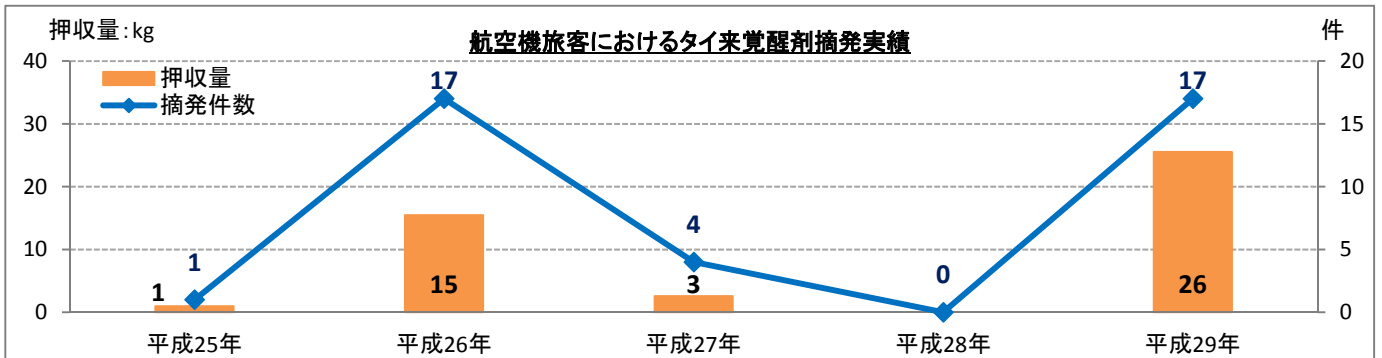
仕出地別でみると、減少傾向にあった中東地域が急激に増加しており、摘発件数は過去5年間に於いて最多の7件を記録した。



航空機旅客による密輸の増加！②

～タイ、マレーシア来の急増～

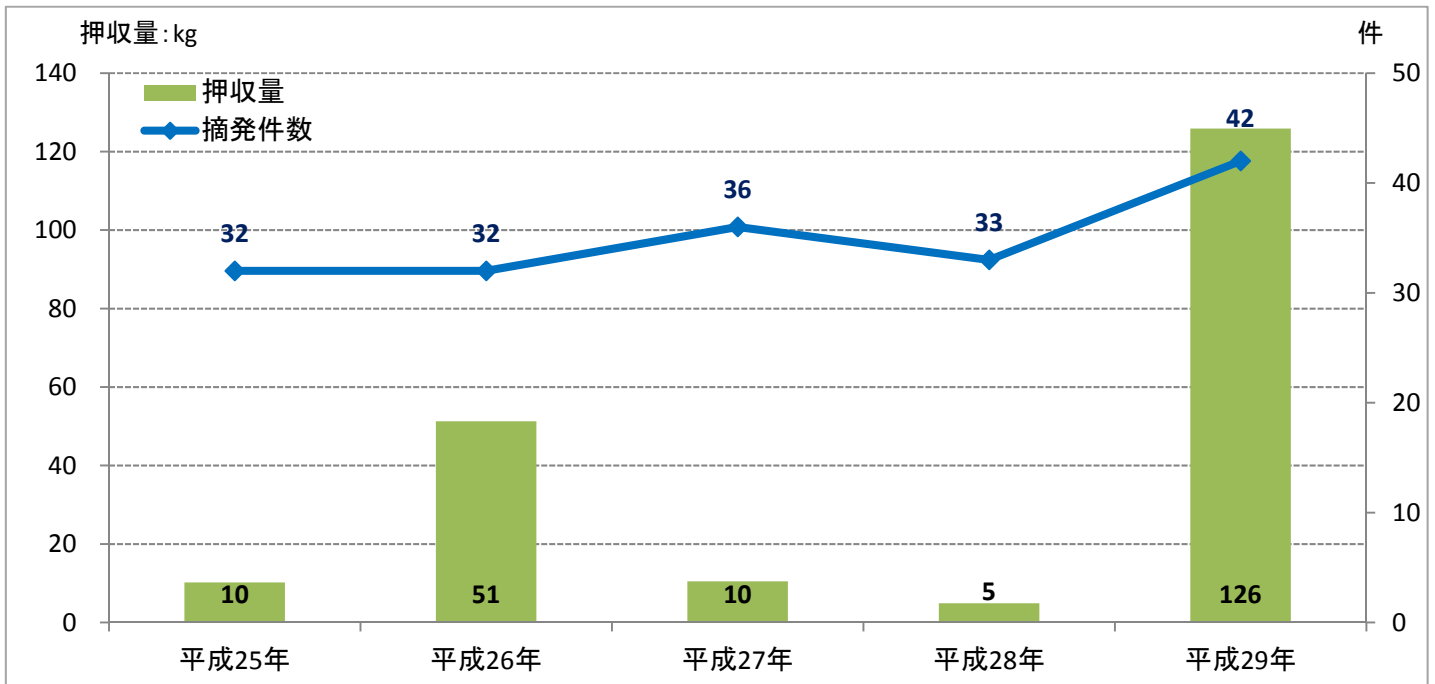
- アジア地域を仕出地とするものが依然として覚醒剤密輸入事犯の中心となっており、特に、タイ、マレーシアを仕出地とした摘発が前年から急増している。
- タイを仕出地とした摘発は、件数・押収量ともに平成29年における航空機旅客において最大を記録した。犯則嫌疑者の国籍は、約9割の15人がタイ人であった。
- マレーシアを仕出地とした摘発は、過去4年間における件数・押収量合計を平成29年1年間だけで上回った。犯則嫌疑者の国籍は、8割となる8人がマレーシア人であった。



2 大麻密輸入事犯の概況

- ▶ 平成26年以降減少傾向にあった押収量が大幅に増加し（前年の約25.7倍となる約126kg）、平成24年以来5年ぶりに100kgを超えた。
- ▶ 摘発件数・押収量ともに過去5年間で最大となった。

大麻摘発実績



(1) 密輸入形態

- ▶ 航空機旅客からの摘発は、件数・押収量ともに増加した。
- ▶ 商業貨物からの摘発は、1件で約100kgの大量の摘発（海上貨物）があり、押収量が大幅に増加した。
- ▶ 国際郵便からの摘発は、件数・押収量ともに増加した。

形態別大麻摘発実績

(摘発件数/押収量)

	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
航空機旅客	7件	0kg	16件	28kg	20件	1kg	21件	0kg	23件	2kg
商業貨物	4件	2kg	9件	22kg	5件	2kg	6件	4kg	10件	118kg
海上貨物	-	-	2件	0kg	-	-	-	-	1件	100kg
航空貨物	4件	2kg	7件	22kg	5件	2kg	6件	4kg	9件	18kg
国際郵便	21件	8kg	7件	1kg	11件	8kg	6件	1kg	9件	6kg
船舶乗組員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	32件	10kg	32件	51kg	36件	10kg	33件	5kg	42件	126kg

(2) 仕出地

- アジア仕出の摘発件数は前年とほぼ変わらないが、押収量は大幅に増加した。
- 北米仕出は、摘発件数・押収量ともに増加した。
- アフリカ仕出の押収量が全体の約8割を占めた。

仕出地別大麻摘発実績

(摘発件数・押収量／構成比)

	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
ア ジ ア	4件	13%	9件	28%	7件	19%	9件	27%	10件	24%
	0kg	0%	22kg	44%	4kg	42%	3kg	63%	11kg	9%
北 米	16件	50%	17件	53%	17件	47%	17件	52%	21件	50%
	10kg	97%	29kg	56%	6kg	58%	2kg	33%	14kg	11%
中 南 米	1件	3%	-	-	2件	6%	1件	3%	-	-
	0kg	0%	-	-	0kg	0%	0kg	0%	-	-
アフリカ	1件	3%	1件	3%	-	-	-	-	1件	2%
	0kg	0%	0kg	0%	-	-	-	-	100kg	79%
欧 州	8件	25%	4件	13%	9件	25%	4件	12%	4件	10%
	0kg	2%	0kg	0%	0kg	0%	0kg	3%	1kg	1%
中 東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不 明	2件	6%	1件	3%	1件	3%	2件	6%	6件	14%
	0kg	0%	0kg	0%	0kg	0%	0kg	0%	0kg	0%
合 計	32件	100%	32件	100%	36件	100%	33件	100%	42件	100%
	10kg	100%	51kg	100%	10kg	100%	5kg	100%	126kg	100%

南アフリカ共和国からの大麻の押収量、過去最大！

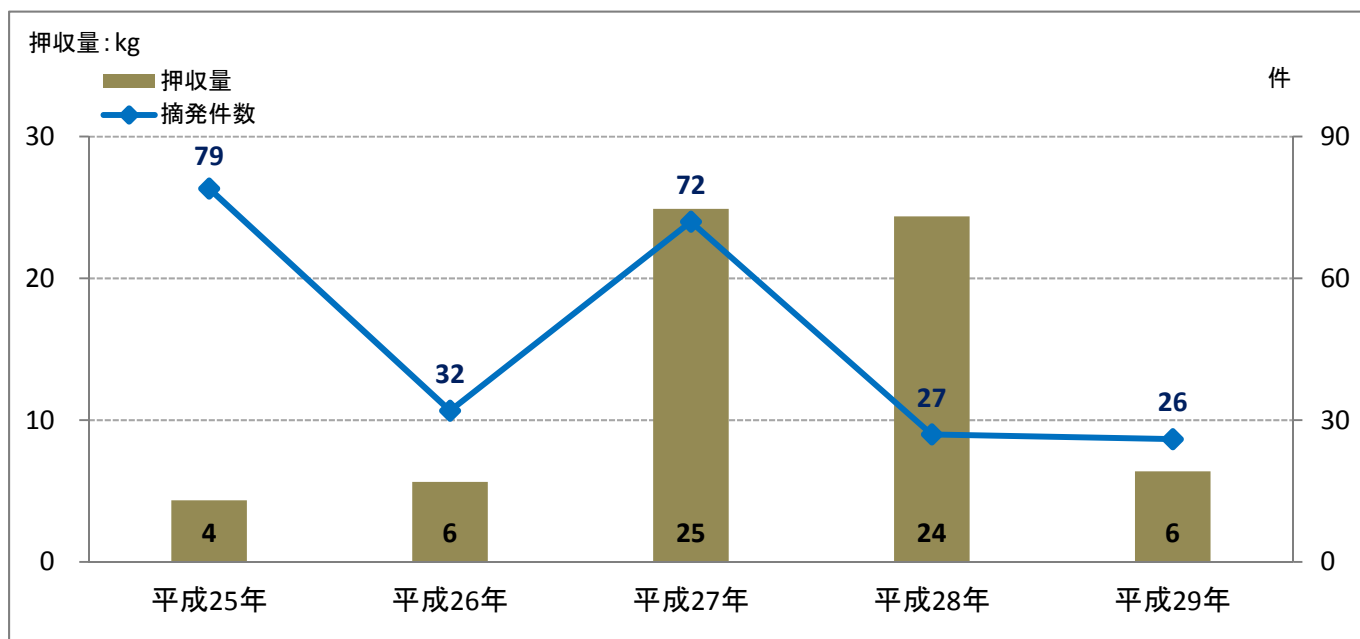
平成29年12月、南アフリカ共和国来海上貨物（木製ドア）から大麻約100kgを摘発した。南アフリカ共和国を仕出地とする1件あたりの押収量としては、過去最大となった。



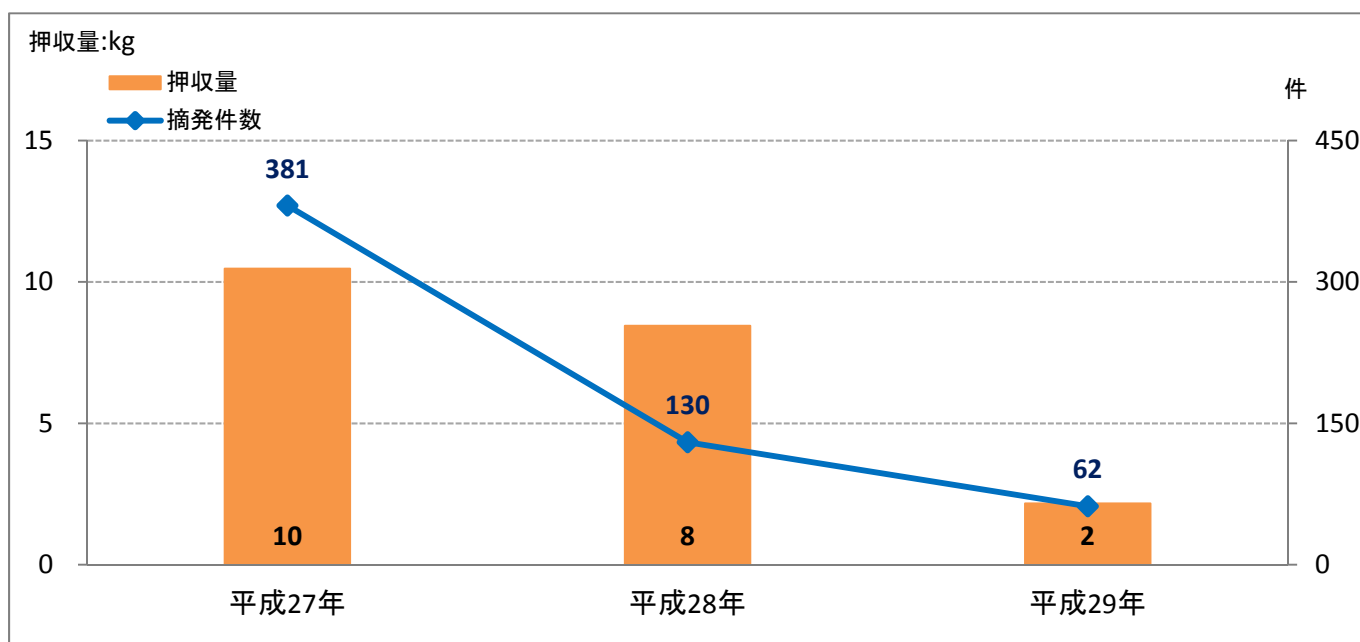
3 その他の不正薬物密輸入事犯の概況

- 麻薬の密輸入は、摘発件数・押収量ともに減少した。
- 指定薬物の密輸入は、摘発件数・押収量ともに大幅に減少した。

麻薬摘発実績



指定薬物摘発実績



東京税関における社会悪物品の摘発実績

資料1

種 類	年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年		
							前年比	
覚醒剤	件数	118	124	50	50	100	200%	
	kg	374	289	217	447	283	63%	
大麻	件数	32	32	36	33	42	127%	
	kg	10	51	10	5	126	2573%	
	大麻草	件数	22	18	21	22	34	155%
		kg	10	29	8	4	114	2965%
大麻樹脂	件数	10	14	15	11	8	73%	
	kg	0	23	3	1	12	1113%	
あへん	件数	1	-	-	-	-	-	
	kg	0	-	-	-	-	-	
麻薬	件数	79	32	72	27	26	96%	
	kg	4	6	25	24	6	26%	
	千錠	15	0	0	0	0	382%	
	ヘロイン	件数	1	2	2	-	1	全増
		kg	1	0	2	-	0	全増
	コカイン	件数	3	6	3	4	6	150%
		kg	0	2	18	24	6	25%
	MDMA等	件数	4	1	1	1	3	300%
		kg	3	0	0	0	0	15%
		千錠	0	-	-	-	0	全増
ケタミン	件数	4	5	6	5	5	100%	
	kg	0	1	4	0	0	1018%	
その他麻薬	件数	67	18	60	17	11	65%	
	kg	0	3	1	0	0	53%	
	千錠	15	0	0	0	0	347%	
向精神薬	件数	5	8	2	1	6	600%	
	kg	0	-	0	-	0	全増	
	千錠	2	3	-	0	2	803%	
指定薬物	件数	-	-	381	130	62	48%	
	kg	-	-	10	8	2	26%	
合計	件数	235	196	541	241	236	98%	
	kg	389	346	262	485	417	86%	
	千錠	17	3	0	0	2	741%	
(参考) 使用回数	万回	1,258	1,000	807	1,572	997	63%	
銃 砲	件	1	-	-	1	3	300%	
	丁	0	-	-	1	3	300%	
	うち拳銃	件	1	-	-	1	3	300%
		丁	0	-	-	1	3	300%
拳銃部品	件	-	2	-	-	-	-	
	丁	-	2	-	-	-	-	

- (注) 1. 税関が摘発した密輸事件に係る押収量の他、警察等其他機関が摘発した事件で、税関が当該事件に関与したものに係る押収量を含む。
 2. 覚醒剤は、覚醒剤及び覚せい剤原料の合計数量を示す。
 3. 大麻樹脂は、大麻樹脂その他大麻の製品の合計数量を示す。
 4. MDMA等は、MDMA、MDA及びMDEの合計数量を示す。
 5. (参考)使用回数は、以下の不正薬物について、乱用者の通常の一回分使用量をもとに換算し、合計したものである。
 (覚醒剤：0.03g、大麻草：0.5g、大麻樹脂：0.1g、ヘロイン：0.01g、コカイン：0.03g、あへん：0.3g、MDMA等及び向精神薬：1錠)
 6. 端数処理のため数値が合わないことがある。
 7. 薬物の数量表記について、「0」とは500gまたは500錠未満の場合を示し、「-」とは全くない場合を示す。
 8. 平成29年の数値は速報値である。

平成29年における東京税関の摘発事例

【摘発事例1】ジャム瓶内から覚醒剤約1kgを摘発（平成29年3月）

米国から到着した国際スピード郵便物（EMS）の検査で摘発



【摘発事例2】プラスチックケースから覚醒剤約1kgを摘発（平成29年8月）

ウガンダから成田空港に到着したカナダ人男性の携帯品検査で摘発

（クレヨン型プラスチックケース及びクリームケース内に隠匿）



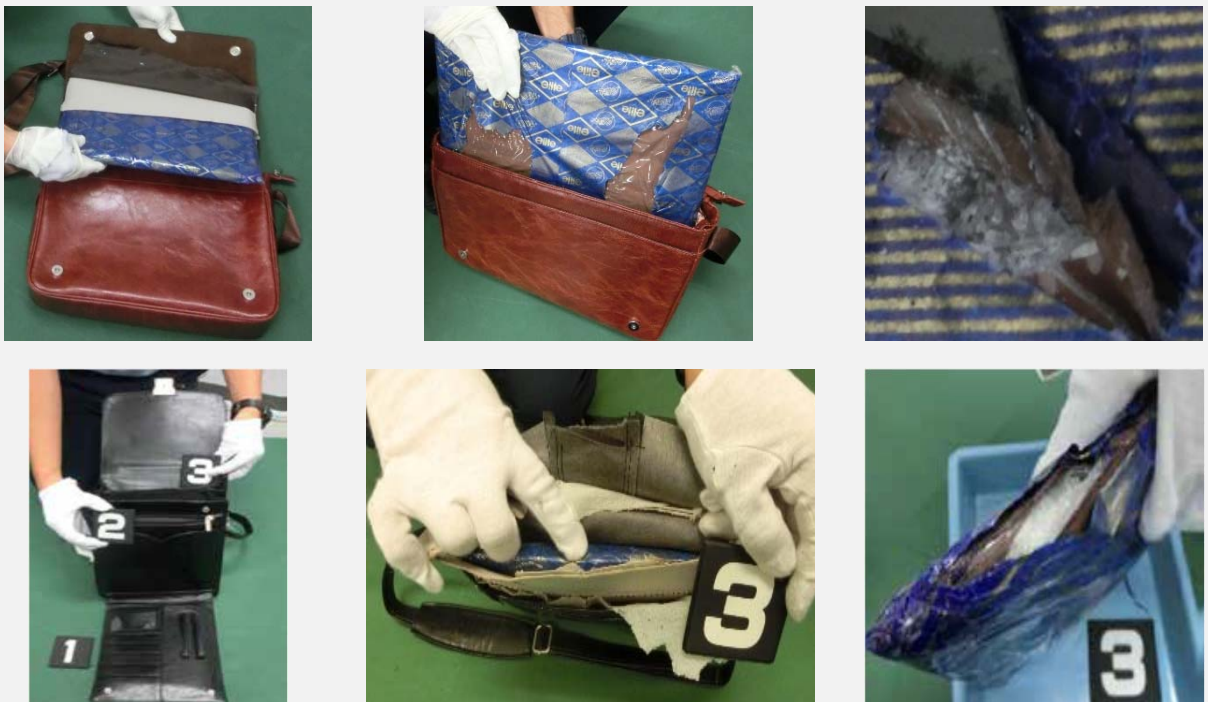
【摘発事例3】 ガラスボトル内から覚醒剤溶液約4kgを摘発（平成29年9月）

カナダから到着した国際スピード郵便物（EMS）の検査で摘発



【摘発事例4】 バッグから覚醒剤計約5kgを摘発（平成29年10月）

カンボジアから成田空港に到着したタイ人男性2名の携帯品検査で摘発



【摘発事例5】 スーツケースから覚醒剤計約1kgを摘発（平成29年11月）

メキシコから成田空港に到着したメキシコ人男性2名の携帯品検査で摘発



【摘発事例6】 両足太腿及びふくらはぎに巻き付けた覚醒剤計約6kgを摘発（平成29年12月）

マレーシアから羽田空港に到着したマレーシア人男女3名の携帯品検査で摘発



【摘発事例7】太鼓から大麻樹脂約6kgを摘発（平成29年1月）

インドから到着した航空小口急送貨物（SP貨物）の検査で摘発



【摘発事例8】アンプから大麻草約1kgを摘発（平成29年4月）

米国から到着した航空小口急送貨物（SP貨物）の検査で摘発

